

MeetingMinutes

会議名	BIMを活用した積算・コストマネジメントの環境整備協議会 (BSIJ協議会) 第4回	記録	塚原
日時	2021年3月15日(月)10時~12時	確認・発行者	森谷
場所	Web会議 (ZOOM)	発行日	2021年3月18日

出席者 (順不同・敬称略) ただし、●は出席予定者、○は欠席予定者を示す

座長	● 森谷靖彦	● 副座長 村瀬弘幸 (情報委員会WG主査)
委員	● 志手一哉 (情報委員会委員長)	○ 沼本要七 (当協会副会長)
	● 加納恒也 (当協会副会長兼専務理事)	● 前田伸子 (当協会常務理事)
	○ 日本建築士会連合会: 横松邦明	● 田中洋介 (株式会社安藤・間)
	● 日本建築士事務所協会連合会: 加藤政弘	● 中島 潤 (株式会社大林組)
	○ 建築設備技術者協会: 山下浩一	● 高橋肇宏 (株式会社日積サーベイ)
	○ 日本ファシリティマネジメント協会: 飯島勇、松岡辰郎	● 菊野 格 (株式会社松田平田設計)
	● BIMライブラリ技術研究組合: 寺本英治	● 大越 潤 (CLIC Japan)
	● 日本不動産鑑定士協会連合会: 立石正則	● 須貝成芳 (株式会社三菱地所設計)
	○ 建設物価調査会: 足利全教	● 比嘉俊介 (株式会社安井建築設計事務所)
	● building SMART Japan: 三戸景次	
オブザーバー	○ 日本建築家協会: 筒井信也	● 岩松 準 (建築コスト管理研究所)
	● 日本建築構造技術者協会: 馬場勇輝	● 久保田 裕二 (建築コスト管理研究所)
	○ 日本ファシリティマネジメント協会: 猪里孝司	● 生島 宣幸 (株式会社日積サーベイ)
	● 建築・住宅国際機構: 西野 加奈子	● 杉江 弘光 (東急建設株式会社)
	○ 建築研究所: 高橋 暁	● 谷藤 正樹 (株式会社フジキ建築事務所)
	● 日本設備設計事務所協会連合会: 竹馬章二	● 濱地 和雄 (オートデスク株式会社)
	● 建設業振興基金: 中緒陽一、帆足弘治	● 川本 伸二 (協栄産業株式会社)
	○ 建設物価調査会: 岩井卓矢、丸木健	● 齊藤 武 (株式会社竹中工務店)
	● 日本空調衛生工事業協会: 滝澤 宣昭	● 濱田 (株式会社四電工)
		● 柳田 将貴 (大成建設株式会社)
国土交通省	○ 国土交通省 住宅局 建築指導課: 田伏翔一	● 国土交通省大臣官房官庁営繕部: 小澤 剛
	● 国土交通省 住宅局 建築指導課: 鈴 晃樹	● 国土交通省大臣官房官庁営繕部: 若桑節治
		● 国土交通省大臣官房官庁営繕部: 宮内 徹
		● 国土交通省大臣官房官庁営繕部: 高原洋介
報道関係者	● 日刊建設工業新聞	● 日刊建設通信新聞
	● 建通新聞	○ 建設産業新聞
事務局	● 事務局長 塚原 均	以上42名
配布資料	No.	
	1	(資料1) BSIJ協議会委員名簿
	2	(資料2) 第3回BSIJ協議会議事録(案) 2020年12月24日版
	3	(資料3) BSIJ協議会の活動について
	4	(資料4) 各部会からの報告資料(後日BSIJ協議会HPに掲載予定)
5	(資料5) その他資料(後日BSIJ協議会HPに掲載予定)	

議事次第

NO	ITEM			ACTION / PROGRESS / CONTENTS	配布資料	担当	DUE DATE
	No.	FROM	TO				
1	報告事項						
	1	森谷	ALL	委員名簿および前回議事録確認等 委員名簿および前回議事録を確認し、特に意見および修正はなかった。	1 2		
	2	森谷	ALL	今年度のBSIJ協議会の活動について 今年度の上期、下期の実施内容について、その成果(パブコメ実施等)も含め説明があった。	3		
	3	志手	ALL	今年度の情報委員会の活動について(成果報告) 建築BIM環境整備部会部会長の立場も含め説明があり、モデル事業・連携事業に参加している当情報委員会委員が所属する企業と情報委員会との情報交換、Uniclass2015の翻訳やそれを利用した概算の方法やその部分的な検証をしていることの報告があった。	4		

MeetingMinutes

会 議 名		BIMを活用した積算・コストマネジメントの環境整備協議会 (BSIJ協議会) 第4回			記録		塚原	
日 時		2021年3月15日(月)10時～12時			確認・発行者		森谷	
場 所		Web会議 (ZOOM)			発行日		2021年3月18日	
4	各WG	ALL	<p>情報委員会活動報告等(各WGからの報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・翻訳検討WG(田中):パプコメの意見反映、第三者ネィティブチェックを経て、2020年度版のUniclass2015翻訳データをとりまとめた。今後は、更新への対応や普及に向けた整備などのメンテナンスを行っていく必要がある。 ・LOC検討WG(中嶋):コストマネジメントに必要な情報を整理するに当たり、部位別内訳明細書をアウトプットに定め、①BIMモデルに記述される情報、②BIMモデルの情報を参考に設定する情報、③BIMモデル以外の媒体に記述される情報に区分した上で、BIMオブジェクトに付与する建築分類体系を含む分類体系を検討した。その結果、Uniclass2015の各テーブルのみでは分類出来ない粒度の情報がコストマネジメントには必要であり、その情報に対しては、別途、一貫性のある体系が必要であることを見出した。 ・コスト概算支援プログラムの試作(高橋):試作プログラムを使って検証用BIMモデルの数量を算出したところ、詳細積算数量と比較して概ね10%以内の差に留まったとの報告があった。 ・WG総括(村瀬):今年度の成果は、Uniclass2015を使った部分別内訳書とマッピングであった。 <p>今後の課題としては、短期目標として継続メンテナンス、広範的マッピング(S造等)、判別できない仕様等に関する入力ルール、設備概算への適用が挙げられる。また、中長期目標としては、BIM推進会議の他の部会と連携して進めたい。例えば、Sフローに合わせたコストマネジメントガイドラインの策定を部会1、設計三会、分類体系をキーとしたデータ基盤整備を部会5とそれぞれ連携したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部会2との打合せ(寺本):両部会の共通課題を洗い出し、定期的に打合せすることとした。 			5		
5	森谷	ALL	<p>その他(質疑応答)および事務連絡等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・菊野:NBSと正式にアグリーメントを締結したので、Uniclass2015の日本仕様を展開する。 ・立石:概算プログラムがアウトプットサンプルとして、部分別内訳書をベースにしているが、BIMを用いた積算において、BSIJとして部分別内訳書で進めて行くという理解で良いかとの質疑があった。 ・村瀬:コストマネジメント面から概算時は部分別書式を考えている。 ・加納:各ステージの書式については、積算システムなど実務面や積算基準なども含めて検討する必要がある。 ・谷藤:①Uniclass2015部分別内訳書のサンプルは公開しているか、②Uniclass2015を上位としてRIBCをヒモづけられるのか、との質疑があり、①についてはPRISMの成果品としてあるので、共有の仕方を四半期中に検討する、②については、どれが上位ということはなく、併用してコードを使うイメージであるとの回答があった。 ・加納:工種別内訳書は、公共建築工事内訳書標準書式がRIBCで使用されている。2019年に当協会と建設会社等の書式を調査したところ、工種別内訳書式は大筋で項目が共通している。部分別内訳書式は各社バラつきがあるため、現在は当協会の基準をベースにしている。 ・菊野:Uniclass2015を既存のコードとどう連携させるかが、分類体系の肝である。複数のコード分類で上位・下位は適さない。併用して管理することが重要である。 ・志手:Uniclassにその他の分類体系を紐づけて連結したコードにするという上位下位の関係ではなく複数の分類体系を並列して使用する考えであることを補足しておく。 <p>・国土交通省建築指導課 鈴:BIMにおける分類体系は、一般には伝わりづらい分野なので、分かり易くどのように実装して、アウトプットイメージはどういうもので、この先どうなっていくのか、という説明資料がほしい。</p> <p>・国土交通省大臣官房官庁営繕部 小澤:積算実務を担当する我々にとって大変興味深い内容であった。BIMは積算業務の効率化に資すると考えており、今後も、個別に意見交換をさせて頂くなど、連携・協力して実装化に向けた取り組みを進めていきたい。</p>					
2	次回の開催予定							
			次回は、次年度になるが未定:Uniclass2015のマッピングに関する進捗状況を報告したい。					